

平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 千代 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成28年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。毎日の適度な運動や元気よく歩いて登校することも、健全な心と身体をつくることにつながります。ご家庭でも運動習慣の確立への取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

- (1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

- (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

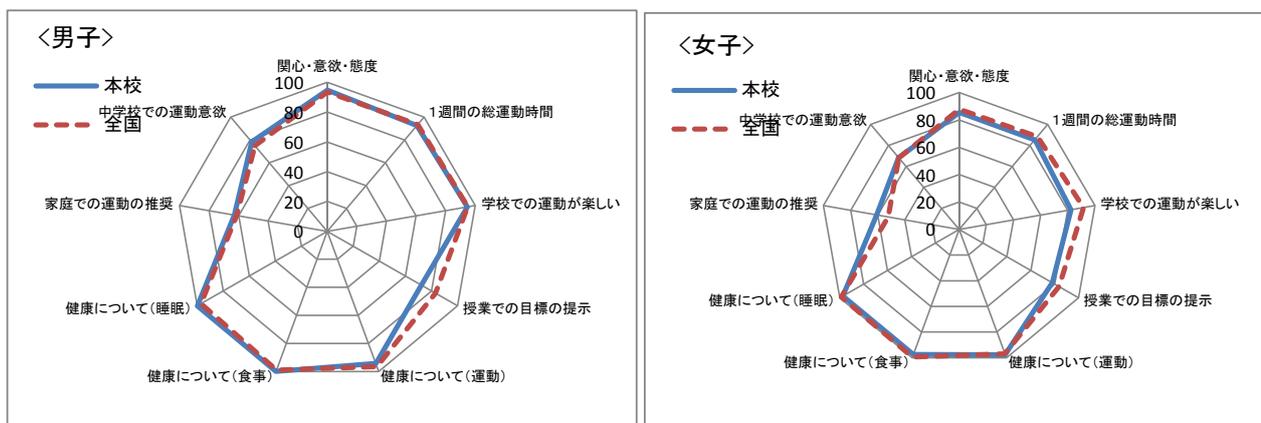
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.47	19.67	32.87	41.97	51.89	9.38	151.39	22.42	53.92
本市	16.78	19.79	31.93	41.14	51.08	9.41	151.32	23.82	53.77
全国平均以上の種目	○	○		○		○		○	

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	18.60	37.21	40.06	41.29	9.61	145.31	13.88	55.54
本市	16.48	18.34	35.88	39.07	40.17	9.67	145.18	13.97	54.74
全国平均以上の種目	○	○		○		○			

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

- ・男女とも「健康について運動、睡眠や食事が大切である」という認識は高い。
- ・「中学校では、授業以外で自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」という設問に対して、全国平均を上回っていることから、運動についての関心は、高いと思われる。
- ・「運動やスポーツが好き」という項目では、男子は、全国平均を上回っているが、女子は下回っており、体育の授業等で、運動する楽しさや、できなかったことができるようになったという達成感を味わわせる必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・全学年で体育科授業の導入に3分間走を取り入れ、走の定着を図り、授業内容へのスムーズな移行と、体温をあげることで、けがの防止に努めた。
- ・職員で体力向上研修会を行い、職員が指導の工夫について話し合ったり、計測方法を確認することで児童に適切な声かけができた。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・小体連に向けて、中学校から講師の招聘を行い、技能の向上を目指した。
- ・休み時間を活用したマラソン・なわとびの全校スタンプラリーを実施し、自立活動につないだ。
- ・新体力テストの結果を、全家庭に返却し、実態把握に努め、次年度へ向けての啓発を行った。
- ・毎日、体を動かすことや、歩くことの大切さを学校だよりで啓発する等して、保護者の理解を求めた。